日本計量新報
計測と科学

日計振が第7回総会開く

計量普及活動を拡大、郵政の計管受託拡大

地方計量協会会費の不公平を是正
試験・校正業務も拡大

㈳日本計量振興協会（日計振）は第7回通常総会を5月29日、東京・千代田区のマツヤサロンで開催した。総会は、2005年度（平成17年度）事業報告、同収支決算報告を承認した。06年度（平成18年度）事業計画（案）、同収支予算（案）を決めた。第1種会員（地区計量協会）の会費改定を決定した。07年度（平成19年度）から実施する。役員を改選し、飯塚幸三会長ほか新役員を選任した。新しい試みとして05年度に同会が実施した補助事業調査委員会の成果を発表した。計量功労者表彰式を挙行し、44名を表彰した。総会終了後、懇親会を開いた。

補助事業調査の成果を発表

飯塚幸三会長はあいさつで、計量関係3団体が統合して新団体になってから7年目に入ったと述べ、日計振が実施している事業の概略を紹介した。統合以来の課題であった、地方計量協会会費を公平な分担の観点から改正することにし提案しているとした。飯塚会長は、日計振が目指すべき方向など建設的議論を期待すると述べた。

事業報告や方針に関し活発に議論され、富山県、神奈川県、新潟県、千葉県、東京（計量士）の代議員が質問や提案などをした。

06年度の新たな取り組み

06年度（平成18年度）は、昨年に引き続き、①計量の普及啓発、②計量管理の推進、③計量の教育・訓練、④計量の情報調査・交流、⑤試験・校正事業（試験・校正センター）、⑥郵政公社計量管理受託業務、の6事業を軸として事業展開する。本年度は、以下の新たな取り組みを推進する。（詳細は④面）

①一般消費者への計量普及活動を拡大する＝▽学校、消費者への計量教育と情報提供の拡大（何でもはかってみようコンテストの実施など）▽計量器コンサルタント制度の拡充（もっと全国規模で実施、検討委員会つくり推進）、②郵政公社計量管理受託業務を継続・拡大する＝▽06年度（18年度）郵政公社計量管理業務継続受託▽ローソンの通常郵便物用はかりの代検査業務の新規受託、③計量士の資質向上、職域拡大の対応策を検討する＝▽計量士業務の拡大と計量士制度改訂への対応検討▽計量士の研修のあり方調査、④試験・校正事業の拡大を行う＝▽質量のJCSS校正事業者の登録申請（試験校正センター）（④面へつづく）

上皿デジタルはかり
5,000円台
TANITA

Yamato
業界初の振動除去機能を搭載で作業効率アップ
デジタル式上皿自動はかり
"UDS-1V/1VD"
天和興産株式会社
電話 岡谷(0266)26-5577

今週の主な記事

日計振が第7回総会開く　①④面
計量史をさぐる会　①面
計量関連団体が総会開く(3)、ほか　②面
都道府県計量行政協議会総会開く、環境計量講習、ほか　③面
日計振2006年度事業計画、役員　④面
計工連2006年度事業計画、役員、表彰者　⑤面
資料・第3WG報告書案(6)　⑥面
齊藤勝夫氏日計振会費問題、社説　⑦面
新観点ニュース、富士計量協会創立50周年、長野計器理事長賞、ほか　⑧面

計量史をさぐる会2006

2つの招待講演と12件の発表、見学会も

6月23・24日、長野県松本市で開催

日本計量史学会と㈳計測自動制御学会力学量計測部会は「計量史をさぐる会2006」を、6月23日㈮、24日㈯、長野県松本市で開催する。

さぐる会は毎年開催しており、今年は第1日目が研究発表会と懇親会、第2日が見学会となっている。

研究発表会は2部制で、第1部は招待講演。小松芳郎松本市文書館長が『歩兵第50連隊』レンガ建築の実測復元図について」、長野県和算研究会の小林博隆氏が「信州和算資料調査報告」と題して講演する。第2部の研究発表は12件。

24日は、東洋計器㈱内にある「山下喜吉はかり展示館」を見学する。

【概要】◇第1日＝講演会、研究発表会（13時～18時）、懇親会（18時15分～20時）◇場所＝ホテルモンターニュ松本（JR松本駅前、長野県松本市巾上3－2、電話0263－35－6480）◇第2日＝見学会◇場所＝「山下喜吉はかり展示館」東洋計器㈱内（電話0263－48－1122）

【会費】▽講演会・研究発表会＝1000円（予稿集代込）▽懇親会＝6000円（参加希望者）▽見学会＝無料

【講演会・研究発表会プログラム】◇第1部招待講演＝▽「歩兵第50連隊」レンガ建築の実測復元図について（松本市文書館長・小松芳郎）▽「信州和算資料調査報告」（長野県和算研究会・小林博隆）◇第2部研究発表＝▽天明二年（1782）の松本藩における江戸枡座樽屋の枡改一天明二年寅十月枡改一件、浅野次郎右衛門扣一（山田研治）▽尋は5尺か6尺か－和船解析時の尋について（松井哲洋）▽古建築物の建築年代（神社建築）（西村光央）▽江戸時代の地方枡に関する実測結果（大網功）▽北海道計量史－開拓時代を中心に－（蔵原清人）▽「戦時下日本の熱電温度計測Ⅲ」（小川実吉、高田誠二）▽古尺の熱膨張率の実測（高田誠二、小宮勤一、坂手弘明）▽肆百両の繭型分銅について（山下喜吉、小林健蔵、山田研治）▽後藤家正本分銅のSI単位による測定（第1報）（根津嘉明、小宮勤一、馬場章）▽古分銅の体積の音響による測定（小宮勤一）▽アメリカ合衆国計量史序説(2)（黒須茂）▽メッシェンとドランブル「メートル法の基礎」に関するフランス現地調査報告（西田雅嗣）

【問い合わせ先】日本計量史学会事務局＝〒162－0837、東京都新宿区納戸町25－1、電話／FAX03－3269－7989、E-mail：shm@beach.ocn.ne.jp http://www.keirvou-keisoku.co.jp/databank/gakkai/sagurukai/sacuru2006i.htm

湿度の校正はSATOへ
株式会社 佐藤計量器製作所
JCSS 高城工場 校正技術課
〒901-1400 本社 〒901-0901 高城工場